

創業60周年を機に北部事業所をリニューアル

FOCUS ▶ K

永野商店

一般、産業廃棄物処理などの(株)永野商店(熊本市北区室園町、永野順也社長)は5月20日、同区四方寄町の北部事業所をリニューアルした。

創業60周年を機に、人員増や事業所の老朽化を背景に外壁を刷新するなど、3棟の処理場を改装。外壁はスレート造りから断熱性の高い素材に変え、色彩を会社イメージカラーの濃紺に統一した。永野社長は「北部事業所は交通量の多い国道3号沿いに位置しており、外壁をリニ



▲外壁工事などのリニューアルを施した北部事業所

ュールすることで清潔感を出しつつ、会社カラーをアピールすることを図った。従業員の働きやすい環境づくりも推進したい」と経緯を説明。国道側の社名看板も60周年で新たに制作したデザインに変更している。

また、事務所や倉庫・処理場の屋根には太陽光パネルも設置。日中は167・67kw/時の発電を見込んでおり、同事業所で使用する6〜7割の電力をまかなうことができ、余剰分は売電するという。「廃棄物の収集と再資源化が生業である私たちが率先して再生可能エネルギーを優先的に活用して、脱炭素社会に貢献することが責務」と永野社長。総工費は約1億2千万円を投じた。

北部事業所は2004年に土地と建物を取得し、05年に本社外初の拠点として開設。ピン、缶、ペットボトル選別ライン機やペットボトル、廃プラスチック類、木くずの破碎・選別機な

どを導入している。

脱炭素へ新事業構想も

また、同社は周年を機に、産業廃棄物処理業の経験を生かした業務の多角化も視野に入れていくという。「脱炭素社会が叫ばれるいま、当社で収集した不用品をそのまま処分するのではなく、世の中のニーズにマッチングするような再資源化技術を獲得する必要がある」と永野社長は話す。今年中にも熊本市西区池上町に置く西部事業所のリニューアルも計画しており、地球環境保全やカーボンニュートラルの実現に向けた新事業の構想を検討していく。

2月にホテル日航熊本で開いた創業60周年記念祝賀会には関係者ら約300人が参加。永野社長の叔父である姜尚中熊本県立劇場館長も出席し、永野正男相談役、永野順子相談役夫人、永野康明専務、永野邦広常務らが「まだまだこれからだ。創業

時の思いを忘れずに、新しいことにも果敢に挑戦したい」とそれぞれ抱負を述べた。

同社は1963年創業、79年設立。資本金は1千万円。北区四方寄町、同区北迫町、西区池上町に事業所を置く。従業員数は170人。永野社長は1972年生まれの50歳。創業者の永野正男相談役の長男。(企画開発部・加藤小百合)



▲2月に開いた創業60周年記念祝賀会であいさつする永野順也社長



▲約300人が参加した創業60周年記念祝賀会